

市議会 あんな話 こんな話

第6話

「九州一の公会堂」

大正13年の東宮殿下（皇太子・昭和天皇）と久邇宮良子女王殿下の成婚にちなむ記念事業として、鹿児島県当局は県下市町村に「図書館を建設しよう」提唱しましたが、当時の鹿児島市長は「市には既に九州でも屈指の県立図書館があるので、文化の殿堂としての公会堂を建設する」とし、市会もその提案を受け入れ、市公会堂建設を議決しました。

その後、補助金の交付について県となかなか合意に至ることができず、最終的に県から「補助金の代わりに旧県庁舎（現在の中央公民館から中央公園付近にかけて建っていた）の跡地を市に譲渡するから、それで了承してほしい」との申し入れがあったことから、市と市会はこれを受け入れることにしました。思いがけず同跡地が市有地となったこと

で、熱い論戦が展開されていた公会堂の建設場所の議論は一気に終息しました。

公会堂の設計を担当したのは、大阪市中之島公会堂を設計した片岡安氏であったため、昭和2年に完成した公会堂は、「中之島公会堂のやや小型版」となりましたが、当時「九州一の公会堂」と評判が高かったようです。

かつての市公会堂である現在の中央公民館は、改修工事を経て今月、一部オープンしました。



昭和2年に完成した公会堂
(写真は落成直後の南洲50周年祭の様)